

第32回品質保証検討会 議事録

1. 日時:平成23年11月17日(木)13時30分～16時00分

2. 場所:(社)日本交通協会 大会議室

3. 出席者(順不同,敬称略)

出席委員:池田主査(東京電力),鈴木副主査(中部電力),井上(日本原子力技術協会),大谷(三菱電機),岡部(IHI),小坂(原子力安全・保安院),小林(原子燃料工業),齋藤(西日本技術開発),笹原(東北電力),佐藤(東芝),佐藤(日本原子力発電),島津(北海道電力),高田(中国電力),高橋(富士電機),辰巳(北陸電力),手束(四国電力),堂野(関西電力),中村(日本原燃),長谷川(電源開発),渡邊(東京電力),渡辺(原子力安全基盤機構) (計21名)

代理委員:筒井(九州電力 東代理),徳久(三菱重工業今村代理),深堀(グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン小宮山代理),新井(三菱原子燃料 深川代理), (計4名)

欠席委員:錦野(日立GE),藪内(日本原子力研究開発機構) (計2名)

常時参加者:植木(原子燃料工業),下川(原子力安全基盤機構),中川(東芝),湯浅(原子力安全・保安院) (計1名)

オブザーバ:近藤(リサイクル燃料貯蔵) (計1名)

事務局:糸田川(日本電気協会) (計1名)

4. 配付資料

資料32 - 1 品質保証検討会委員名簿

資料32 - 2 第31回品質保証検討会 議事録(案)

資料32 - 3 - 1 平成23年度活動計画(案)

資料32 - 3 - 2 平成23年度各分野の規格策定活動(案)

資料32 - 4 「JEAC4111 - 2009原子力発電所における安全のための品質保証規程」に寄せられた質問への回答(案)

資料32 - 5 平成22年度講習会アンケート意見への対応について

資料32 - 6 QMS構造検討WG中間報告「設計管理とは?」「製品とは?」(案)

資料32 - 7 民間規格化と規格策定委員会の活動について

参考1 第30回品質保証分科会議事録(案)

参考2 第40回原子力規格委員会議事録(案)

参考3 JEAC4111平成23年度コース 講習会の開催について

参考4 QMS構造検討WG中間報告案に対するメールコメント

5. 議事

(1)主査挨拶,副主査指名,配付資料確認,定足数確認

事務局より,前回の分科会において池田委員が承認され,本検討会主査となった旨

の説明あった。池田主査より挨拶があり、副主査そして鈴木委員が指名された。

池田主査による代理委員4名の承認及びオブザーバ1名の参加を認めた後、事務局より、代理委員を含め出席委員数が25名で、全委員27名の3分の2以上となり、議案決議の定足数を満たしていることが確認された。

(2) 委員交代確認、常時参加者承認、前回議事録の確認

事務局より、資料32-1に基づき、交替委員候補者4名、退任1名、新規委員候補1名が説明され、各候補者から自己紹介があった。

続いて事務局より、東芝の中川氏および原子力安全・保安院の湯浅氏から常時参加の申し出があったことの紹介があった。それぞれ佐藤委員(東芝)および小坂委員から将来の後継者としてほしい旨の説明があった後、挙手による全員の賛成により、承認された。

また、資料32-2に基づき第31回品質保証検討会議事録(案)が紹介され、正式な議事録とすることが確認された。

(3) 平成23年度計画について

事務局より、平成23年度計画は3月11日の原子力規格委員会で審議予定であったが、会議途中の地震発生により会議が中止され未審議となったことから、震災後初開催の12月19日の同委員会において、上期の実績も含めた形で審議されることとなった経過説明があった。

また、資料32-3-1,2については、講習会に関する記載部分は事務局が見直し案を作成し、それを含む全般見直しを池田主査とQMS構造検討作業チームリーダーである渡邊委員が実施されたことの説明があった。

審議の結果、一部表現の適切化が必要等のコメントがあり、主査において修正後、委員に送付・確認を得た上で、11月25日の品質保証分科会に上程することが全員の挙手により可決された。

[主なコメント]

・資料32-3-1に「QMSの導入以来8年目を迎え、これを総括するとともに、福島第一原子力発電所事故の反省点について議論した。」と記載しているが、議論はしたが、「総括」とまで言えるのかどうか。また、QMSと原子力発電所事故が関連があるように見える点も気になる。

表現を工夫して見直したい。

・下期から、JEAC4111/JEAG4121の見直しに向けた活動を開始したが、その記載が抜けている

平成23年度活動計画/中長期計画に記載追加する。

(4) 質問対応について

主査より、資料32-4に基づき、関西電力(株)からJEAC4111の規格の解釈に関して寄せられた質問に対する回答案について説明があった。主査において修正後、委員に送付・確認を得た上で、11月25日の品質保証分科会に上程することが挙手で5分の4以上の賛成により可決された。

なお、質問者の氏名、所属等を追加記載する提案については、事務局でルール、こ

れまでの運用実態を確認し、それに従うこととした。

[主なコメント]

- ・回答欄の「廃棄後、校正済みの機器で測定を開始するわけで、ここで廃棄した機器の正しさが立証されると言う考え方も成り立ちます。」の部分が、対象物が同じで、継続的に同じ計器を使用するのであれば言えるが、そうでない場合には成り立たないので、条件を追記するか削除した方がよいのではないか。
例示として載せた方が理解し易いので、この記載が成り立つ条件を追加することとしたい。
- ・形式上の話だが、質疑応答の審議細則には「質問には、質問者の氏名、所属、連絡先を記載する。」と書かれているので、追加した方がよいのではないか。この質問がどこからきたのか、分からない。ルール通りにする必要がある。
- ・ルールに従えばよいと思うが、規格委員会で報告するときは記載しているのか。今までは載せていない。
- ・電気協会で確認して、それに沿った形で、書かなければいけないということであれば、資料にのせるということによいか。
- ・決めている通りに実施したらどうかという提案と思うが、その規定された趣旨は何なのかということも考えて運用していかないといけないと思う。プライバシーの問題もあるし、こういうことを議論するときに、それを書くことによって予断を生じるようでは、いけないと思う。無責任な質問をされると答える必要はないが、キチンと所属等を明らかにして質問された場合には、機関としてきちんと対応するという趣旨でこの規定はあるのだと思う。所属・氏名を記載しないことがルール違反かどうかは、まず、実績がどうなのか調べたらよい。
- ・会議が公開という観点では、これまでの運用通り匿名性を持たせることでよいと思う。事務局で運用実態を確認させていただく。また、質問者へは、匿名を希望するかどうかを確認する。(翌日確認した結果、特に匿名の希望はなかった。)

(5) 講習会アンケート対応について

長谷川委員より、資料32 - 5に基づき、分科会からの宿題事項である、講習会アンケート意見への対応について説明があった。

審議の結果、一部修正後、主査より委員に送付・確認を得た上で、11月25日の品質保証分科会に報告することが全員の挙手により可決された。

[主なコメント]

- ・今回はこれでよいと思うが、資料作成者の負担を考慮すれば、資料の簡素化が望ましい。
来年の資料作成時に検討したい。
- ・今年は震災があったため、普及促進チームの負担を考慮して、テキストは前年度と原則同じとし、特にコースも回数を従来の2回から1回にするなど、コースやコース講習会実施にあたり計画した旨を少し入れてほしい。
冒頭に追加する。
- ・表紙1枚で分科会資料とすることでよいのか。
今回は、前回分科会でアンケート内容をすべて添付したことから、詳細な添付資料は必要と考えている。

(6) QMS 構造検討/中間報告について

渡邊委員(QMS構造検討チームリーダー)より、資料32-6に基づき、QMS構造検討/中間報告について説明があった。一部表現の適切化が必要とのコメントがあり、渡邊委員において修正後、主査より委員に送付・確認を得た上で、11月25日の品質保証分科会において中間報告することが全員の挙手により可決された。

[主なコメント]

・3点コメントがある。1点目は2枚目のPPTの7.3「仕様化(要求を満たす手段の決定)」との記載は、事業者が実際に設計を行う場合が抜けてしまうような誤解を与えるのではないか。

「仕様化」を削除し、「要求を満たす手段の決定」のような見直しを検討する。

・2点目は、9枚目のPPTの「…今後は を製品から外す方向」というところ。ここは「外す」のではなく、11枚目のPPTで説明されているように、もともと や に入っているからである。「保安活動(業務)」はより重要になると理解しているので、それが伝わらないのではいけない。

・3点目は、本日追加の参考資料の2枚目の下3～5行「何でもかんでもが製品になって、肝心の製品である原子力安全のために何が重要な管理要素かが曖昧になっていたのでないかという要因があるのではないかと考えております。」の記載は、こういう側面があるかもしれないが、IAEAのGS-R-3と比べるとJEAC4111は範囲がまだ狭いのではないかと思う。IAEAにあわすのであれば、JEAC4111の世界はもっと広がっていく方向だ。この辺の整合をどのようにしていくかは、難しいところだ。

IAEAのガイド(GS-G-3.5)の立地段階、設計段階、建設段階、運転段階の各ガイドを今後JEAG4121に反映していくかということは、今後の検討課題であり、まずはQMS構造検討WGの検討結果を踏まえて、本検討会にはかることとしたい。

(7) 民間規格化と委員会規約について

鈴木副主査から、資料32-7に基づき、JEAG4121-2009[追補版](根本原因分析に関わる内容の充実)の審議過程の経験を踏まえて、民間規格化の経緯、適正手続(規約)を守ることの重要性等について、検討会活動における参考として報告があった。

(8) その他

事務局より、前回の第40回原子力規格委員会が地震により中止されたことに関連して、以下の説明があった。

佐藤要委員の表彰は、次次回(3月)の第42回委員会において実施

平成22年度講習会結果報告は次回(12/19)の第41回委員会で実施

参考3の平成23年度コース 講習会開催案内を本日発信するとともに、12/19の第41回委員会で紹介

また、次回開催予定については、別途調整することとした。

以上